

『たがやせ、キャンパス！@深草町家』
学まちコラボ 活動報告

京まちや七彩コミュニティ



目 次

- 事業概要
- 活動報告
- 戦略的コラボイベントの報告
- 社会的な意義
- まとめ

事業概要の説明



京まちや七彩コミュニティとは



・龍谷大学の地域連携拠点である「深草町家キャンパス」で活動し、地域住民の交流・参画を通して、共に学び合い・育て合いながら、地域の「居場所づくり」や「魅力再発見・発信」「勉強会やイベント」を行う学生企画組織。





本事業の大前提

1年間の取り組みの初動期から成熟期までを写真にしたが、本事業の前提としてコンセプトが「居場所」となるための「公園づくり」であるため、継続的な事業として、**中長期的な計画**を持って展開することで、はじめて**社会的な意義**を発信できる。

中長期的なビジョンを踏まえて、**1年目すべてを初動期**であると捉え、3年後、5年後、10年後のあるべき「公園像」に向かって、**学生と親子**と共に創っていくことのできる公園づくりへの「**シクミ**」や「**シカケ**」を考え、1年間の取り組みを行った。



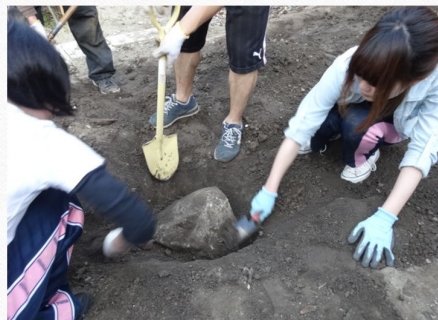
初動期となる1年間の取り組みについて報告する



大きな岩や切り株にも負けず…



はじめは、何も無い休有地



ひたすら、耕す。

気付けば、瓦礫の山



有機肥料で土壌改良

プロ農家の指導で食べる専門家からつくる専門家へ



実験的な栽培は大成功！



できた野菜を、
まずは周囲に
お裾分け



まちやこうえん計画

夏までの取り組みで、専門家の指導のもと、しっかり
土壌改良を行えば、立派な野菜が育つことが分かった。

**しかし、夏までの取り組みは、
試行段階のため、ほぼ学生のみ。**



「まち」のみんなと共同参画型で

『場づくり』できる

「シクミ」、「シカケ」を模索した。

夏を機に、『秋』→『冬』→『春』
地域ニーズや地域課題を発掘するために、「まちあるき」、
「ヒアリング調査」、「勉強会」、「先進事例調査」などを行った。

『コミュニティファーム事業』から 『まちやこうえん計画』へ

(1) 先進事例調査にて、子どもは何でも遊具に変えてしまう
天才であることに気付いた。

⇒野菜や井戸、畑も遊具になる。

(2) 「公園」**概念の変更**
庭」であったこと

⇒「コミュニティ・ガーデン」を創造する計画
が発足。「まちやこうえん計画」へ



秋



先進事例調査

「北加賀屋みんなのうえん」、「アメリカパークレー食べられる校庭」



先進事例として訪問調査/文献調査

冬



収穫祭



まちやこうえん計画

秋の収穫祭 (12/6)

学生が育てた野菜を、地域の方々と収穫すると同時に、次の収穫に向けて種蒔きを行った。

まちやおくどさんを使い、収穫した野菜を調理して味噌汁を作り、ご飯も炊いて、おにぎりも作った。

親子で『栽培』『収穫』『調理』が一度にできるイベント。

イベントの様子



農園
チーム



モノづくり
教室チーム



まちやこうえん計画



理想とする公園像



冬の収穫祭 うどんづくり(3/7)

12月6日の収穫祭と一緒に植えた水菜とホウレン草を収穫し、「うどんづくり教室」を行い、麵からうどんをつくり、収穫を祝い野菜と共に食べた。

同時に、「イチゴプランター大作戦！」の告知を開始

イベントの様子

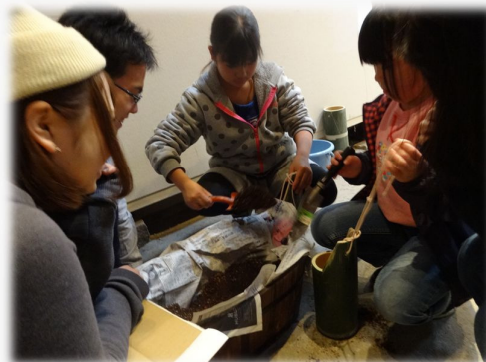


モノづくり教室 竹プランターづくり(3/14)

「農園ではなく公園」であるため、『ものづくり教室チーム』が発足。竹プランターづくりの教室を開催。

プランターにはラディッシュの種を植えて、自宅で栽培、収穫、調理をできるシクミをうちだした。

イベントの様子



春のイチゴプランター大作戦！ (3/28開催)

共同参画型「**学まち**コラボ事業」最大のシクミ

- (1) 「親子所有の持ちプランター」の設置
- (2) 「まちやこうえんパスポート」の発行
- (3) 「親子×学生」で行う共同参画型「第0回こうえんミーティング」開催

⇒収穫時期に、苺ジャムをつくる。



イベントの様子



まちやこうえん計画まとめ

テーマ「町家のうら庭を公園に」

地域ニーズの発掘

- 都市農園を「地域の居場所」に変え、食育農業公園を築く。
- 対話型フューチャーセンター、親子コミュニティの創出。

活動の心得

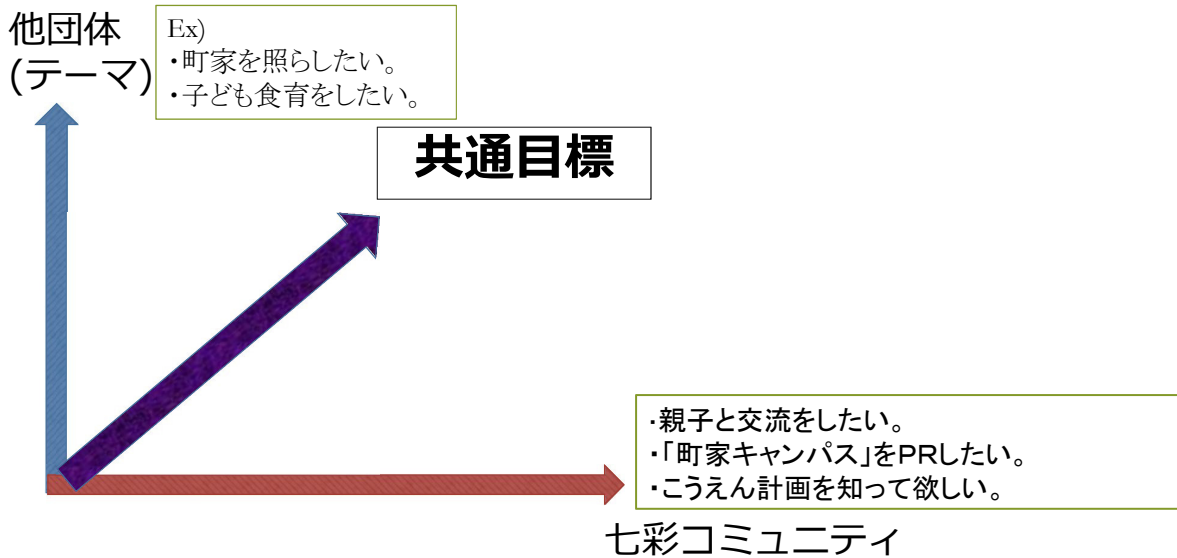
中長期ビジョンのもと戦略的にイベントや企画を仕掛ける。



戦略的コラボイベントの報告



コラボイベント開催時のポイント



別テーマ団体とは、熟議し「理念共有」→「共通目標」をつくる。

他団体コラボによる親子との交流イベント

9/6

まちやライトみゆ〜じあむ



11/24

どんぐりdeキッズカジノ



1/31

餅つきde交龍



2/14

町家子どもクッキング



コラボ事業の社会的な意義

単に「」ことが重要なのではない。

を持つ者が、「連携・協働」により、
共に、を行うことが重要である。

まちやこうえん計画を通して得たこと

- 野菜を1から育て、自分たちで調理できるようになった。
- 「0」から「1」を立ち上げるプロセスを経験した。
- 主体的に行動できるようになり、生活の中で切り離せない「まち」との接点を考える機会を得た。

今後の課題・展望

- より大規模なイベントを開き、より密接に地域に関わる。
- 共同参画型の企画運営のシクミづくり、更なる展開



いいアイデアがあれば、
是非、意見交換会で共有して欲しい。

まとめ

「まちやこうえん」は、地域の「居場所」として機能し、共にまちのニーズを発掘したり、食育や社会教育の場として、存在意義を持つ。

初動機として、地域の需要を感じることができ、繋がることができた。来年度以降も継続して、「まち」とともに理想の公園像を追っていきたい。



ご清聴ありがとうございました。

新 展 開 構 想 中

学生スペース

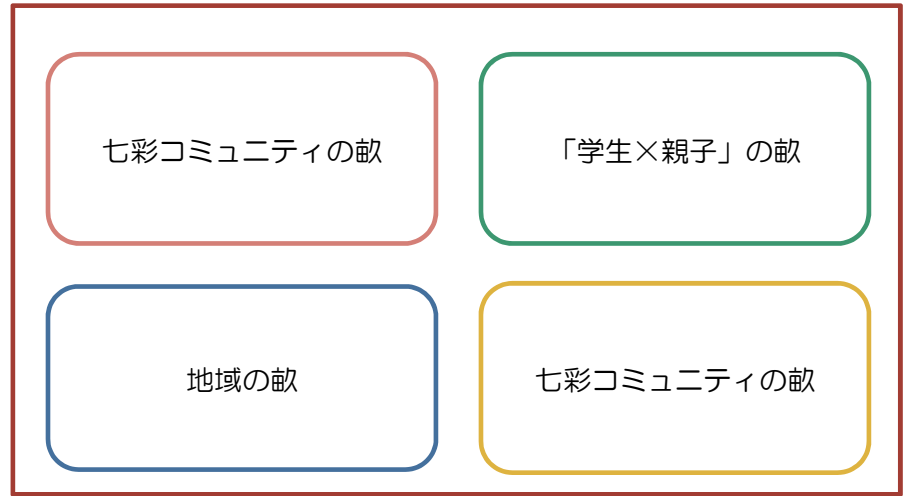


- ・夏に新規の人向けのイベントをする。

地域スペース



- ・イチゴプランターをしてくれた親子と一緒に種を撒く。
- ・夏に既存の親子でイベントをする。



こうえんパスポート発行



プランター プランター プランター プランター